

# 薬の伝言板～病院薬剤師～



No.300 2022年11月

丸子中央病院 薬局

1998年1月から患者さん向けに毎月、発行してきた「薬の伝言板」は今回で300号となりました。当院では外来患者さんの薬は基本的に院外処方箋<sup>しよほうせん</sup>を発行しており、薬の受け渡しなどでかかわる機会が少ないため、病院薬剤師の仕事についてはあまりイメージできない方も多いと思います。今回は私たち病院薬剤師がどんな仕事をしているのかをお話しします。



## ○調剤業務

病院では主に入院患者さんが使用する薬の調剤をおこないます。医師が診断した上で発行する処方箋の内容を確認し、薬の種類や投与量が適切か、飲み合わせの問題はないかなどをチェックします。



薬を取り揃え、薬の量をはかって混ぜ合わせたり、個々の患者さんの病状や要望に合わせて飲みやすくするための工夫をしたり、機械を使って1回分ずつ薬を袋詰めしたりして病棟に届けます。

## ○注射調剤業務

注射薬は直接、血管内に投与されるので使い方には特に注意が必要です。患者さんの状態や病状に応じて処方内容が細かく変化します。より煩雑となるため、間違いが起こることのないように、入院患者さん一人一人が使用する注射薬を1回分ずつ調剤しています。



また、アンプルやバイアルに入った注射薬を点滴の中に混ぜ、患者さんへそのまま使用できるような注射薬混合業務も行っています。一般的な注射薬のほかに、抗がん剤も数多くの注射薬が使用されていて、衛生管理に気をつけて混合作業をしています。

## ○医薬品情報業務

薬を正しく安全に使用するためには、投与方法、投与量、副作用、相互作用などの様々な情報を収集し、その情報が適切なものかどうか評価していくことが必要となります。収集した医薬品情報はまとめて管理し、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフや、患者さんへ情報提供しています。その中の患者さん向けのツールの1つが当院の「薬の伝言板」になります。



## ○持ち込み薬の管理

入院中の治療において最も適切な薬を選択するため、入院時に患者さんが持ち込まれた薬の内容を「薬



「お薬手帳」「薬の説明書」などをもとに確認しています。薬効が重なっていないか、飲み合わせが悪いものがないかも併せてチェックしています。予定入院の場合は入院前に確認させていただくことがあります。

適切な治療のために、入院時には薬とお薬手帳の持参をお願いいたします。

## ○病棟薬剤業務

入院された患者さんから「持参された薬」「市販されている薬」「健康食品等の内容」「服薬の状況」などを聞き取り、今後の治療に問題となることがないか確認しています。またその際「アレルギー歴」「副作用歴」の確認もしています。

薬の使用前には疾患や症状、年齢、体格、腎臓や肝臓の機能などを確認した上で投与量、投与速度に問題がないか、注射薬と内服薬との組み合わせが問題ないかを確認しています。薬が変更になったり、新しい薬が追加されたりした場合にも必ず説明を行っています。



薬を使用する際には効果や飲み方、起こり得る副作用とその対処法の説明を行っています。これを「服薬指導」といい、ただ渡すだけではなく、薬剤師が患者さんからの質問や疑問に答えながら、コミュニケーションをはかることも大切な役割になっています。

薬の使用後には効果が出ているか、副作用が出ていないかを確認しています。その上で内容を医師へ伝え、薬の処方設計や提案をしています。



退院時には、退院後の生活に合わせた薬の使用ができるよう薬の説明をしています。薬剤師が提供する情報は、薬の使用時間・使用回数や使用量などの基本的な情報をはじめ、保管方法、注意したい副作用や飲み合わせなどがあります。保険薬局へ入院中の状況や退院時の薬などを伝えることもあります。

## ○チーム医療

チーム医療は医師、薬剤師、看護師など医療スタッフが互いの専門性を尊重し、おたがいの能力を引き出すことによって最善の治療を考える医療現場の取り組みです。各医療スタッフは医師と対等な立場で意見を述べ、コミュニケーションを密にすることにより、患者さんにとって最も効果的な治療法や方針が検討されています。

薬剤師は「薬」を通して患者さんの治療に携わっています。



患者さんに薬を有効かつ安全に使用していただくため、私たち病院薬剤師は日々最新の知識と技術を学び、薬のエキスパートとして医療に貢献しています。